



Chapter 2 歩みを刻む

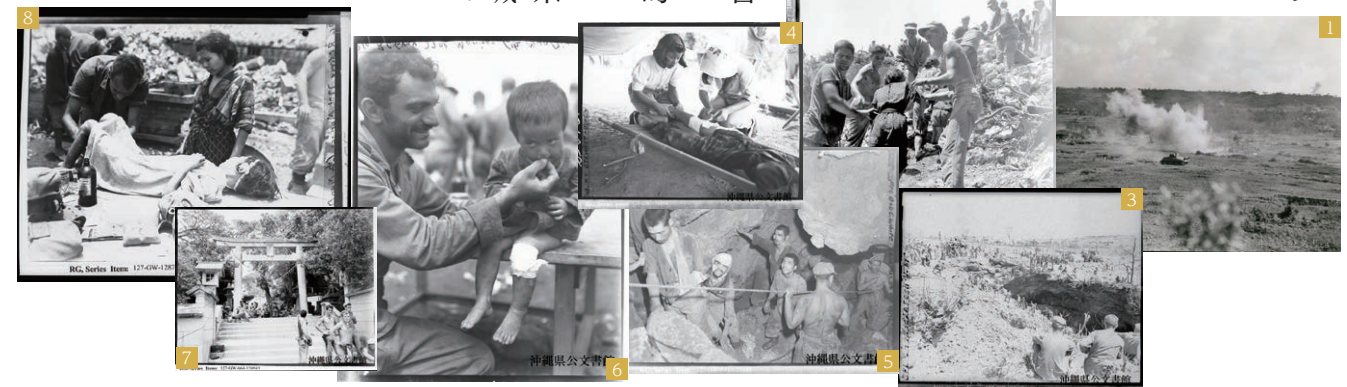
戦後から今へ 時代を築く

焼けたまち。米軍の統治。本土復帰。笑顔を取り戻していく人々。80 年前のあの日から今日まで、さまざまな困難に直面しながらも、人々は歩みを刻み続けてきました。

紙面には到底収まらない数々の出来事。先人たちが歩んできた道のりを年表と写真で少し振り返ってみましょう。

- 1944(昭和19)年8月
- 1944(昭和19)年10月
- 1945(昭和20)年3月
- 1945(昭和20)年4月
- 1945(昭和20)年5月
- 1945(昭和20)年6月
- 1945(昭和20)年11月
- 1946(昭和21)年4月
- 1946(昭和21)年5月
- 1946(昭和21)年6月
- 1946(昭和21)年8月
- 1946(昭和21)年9月
- 1946(昭和21)年10月
- 1947(昭和22)年6月
- 1952(昭和27)年
- 1953(昭和28)年
- 1961(昭和36)年7月
- 1961(昭和36)年10月
- 1971(昭和46)年12月
- 1972(昭和47)年5月
- 1979(昭和54)年2月
- 1989(平成元)年
- 1993(平成5)年
- 1995(平成7)年6月
- 1996(平成8)年4月
- 2002(平成14)年
- 2014(平成26)年
- 2020(令和2)年7月
- 2022(令和4)年5月

兼城・真壁・摩文仁国民学校の児童らが学童疎開のため、那覇港を出港。出港翌日、対馬丸が撃沈。米機動隊による沖縄大空襲(10・10空襲)。米軍、沖縄本島での空爆を本格的に開始。米軍、沖縄本島南部西海岸に上陸。日本軍は首里を放棄し、南部撤退を決定。司令部を摩文仁に移す。6日・米軍が北波平を占領。市域で初の占領。16日・米軍が与座岳の頂上一帯を占領。日本軍最後の防衛線が崩壊。21日・米軍が摩文仁一帯を占領。米軍ニミッツ提督が日本軍の組織的戦闘の終了を宣言。23日・牛島司令官、長参謀長自決。日本軍の組織的戦闘が終了し、市域での戦闘がほぼ終了する。県内各収容所より、糸満町民と高嶺村民の一部が糸満町へ、兼城村民が字兼城へ移動開始。また、名城海岸に南部区が設置され、高嶺(一部)、真壁、喜屋武、摩文仁の各村民を収容。兼城村民、字兼城より各字に移動開始。真壁、喜屋武、摩文仁村が合併し、三和村となる。南部区の住民が段階的に各字へ移動開始。戦後初の糸満ハーレー開催。軍政府より三和村の一部に立ち入り禁止が出され、字に戻っていた住民は、近隣の字に強制移転される。



1. 真栄平で砲弾をかわす米軍の戦車 2. 轟壕から出てくる住民とそれを支える米兵 3. 轟壕で投降する住民とそれを見守る米兵 4. 糸満に収容された住民を手当とする看護要員 5. 轟壕から出てくる住民と日本兵 6. 糸満救護所で幼児にお菓子を与える米兵 7. 米海兵隊司令部が設置された白銀堂 8. 糸満救護所で傷を負った幼児を手当する米兵 (1～8は沖縄公文書館所蔵)

糸満町で戦後初の綱引き開催。学童疎開児童ら、佐世保港を出港。軍民連絡会議、三和村全域への帰還を許可。糸満町新公設市場落成。入母屋造りに赤瓦ぶきの白銀堂落成。琉球政府が慰霊の日を制定。糸満町・兼城村・高嶺村・三和村が合併し、新たな糸満町が誕生。市制施行。糸満市となる。沖縄県本土復帰。沖縄の施政権返還、沖縄県発足。糸満市平和都市宣言。市人口5万人突破。摩文仁の平和祈念公園内に「国立戦没者墓苑」を建設。平和祈念公園で「平和の礎」除幕。1万余の市出身戦没者を祀った「満霊之塔」が糸満市遺族会により建立。糸満市役所新庁舎落成。市人口6万人突破。糸満市場いとまゝる落成。糸満市観光文化交流拠点施設くる糸満落成。(出典)糸満市史資料編7 戦時資料上巻 糸満市市勢要覧2021



9. 糸満町消防団結成式(1949) 10. 1967年の白銀堂 11. ひめゆりの塔を参拝する現上皇と上皇后(1975) 12. 右側通行時の糸満ロータリー(1978) 13. 西崎総合体育館で海邦国体のバドミントン競技開催(1987) 14. 第1回糸満市文化祭(1990) 15. 旧公設市場の様子 16. 市役所新庁舎落成式 17. 市人口6万人突破認定証交付式 18. 東京2020オリンピックで聖火ランナーを務める市出身の玉城美香さん(2021) 19. 糸満市場いとまゝるオープン式典 20. シャボン玉石けん くる糸満記念式典